

第一回中央公園第二期整備計画推進会議 議事録

【日時】 平成 30 年 8 月 10 日（金） 午前 10 時～11 時 30 分

【場所】 豊田市役所南 51 会議室

【出席者】

第一回中央公園第二期整備計画推進会議構成員

| 区 分 | 名 称 | 役 職 | 氏 名 |
|--------------------|-----------------|---------------|-----------|
| 地域経済代表 | 豊田商工会議所 | 会頭 | 三宅 英臣 |
| | トヨタ自動車株式会社 | 総務部管財・渉外室担当部長 | 植松 良太(代理) |
| 地域まちづくり 代表 | 豊田まちづくり株式会社 | 代表取締役 | 河木 照雄 |
| | 豊田市区長会（高橋地区） | 地区会長 | 鈴木 正和 |
| | 豊田市区長会（美里地区） | 地区会長 | 鬼頭 英司 |
| 商業・事業者等 | 株式会社 豊田スタジアム | 代表取締役社長 | 山本 秀樹 |
| | 名古屋鉄道株式会社 | 経営戦略部 課長 | 野田 佳宏(代理) |
| | 株式会社 J T B | 事業推進担当部長 | 羽田 英司 |
| | 一般社団法人ツーリズムとよた | 事務局長 | 荻野 光貴 |
| 市民等関係団体 (公園利活用) | とよた市民活動センター | 所長 | 林 康彦 |
| | 公益財団法人豊田市体育協会 | 常務理事 | 福岡 信明(代理) |
| | 豊田森林組合 | 組合長 | 鈴木 誠美 |
| | 豊田市アーバングリーン協会 | 会長 | 板倉 重治 |
| | 夢農人とよた | 会長 | 石川 龍樹 |
| | 一般社団法人おいでん・さんそん | 代表理事 | 鈴木 辰吉 |
| | 子育て支援団体キッズプランナー | 代表 | 有我 都 |
| | とよた下町おかみさん会 | 会長 | 河原 郁子 |
| 行政機関 | 豊田市 | 市長 | 太田 稔彦 |

| | | | |
|--------|-----------------|---------------|-----------|
| オブザーバー | 愛知県公園緑地課 | 主幹 | 小嶋 幸則(代理) |
| | 株式会社名古屋グランパスエイト | 広報コミュニケーション部長 | 梅村 郁仁 |

【議事内容】

1 開会

2 主催者挨拶（市長）

中央公園第二期整備計画推進会議の第一回目となる。ご案内の通り第二期整備については、従前からの課題は皆さんご認識されていると思う。豊田市駅周辺、矢作川、豊田スタジアム、そして中央公園第二期整備、これらを立体的にどう整備していくのか、この都心地区全体を見据えた視点がないと、資源の有効活用ができないのではないかと、それは非常にもったいないと考えている。

都心の再開発もひと段落し、矢作川のみずべリングの方向性も見えてきた。その流れのなかで、いよいよ中央公園の議論がはじまった。是非とも都心の圏域全体をみるなかで、中央公園の在り方を考えたい。周辺まで視野を広げると、高速道路網ではICが7~8か所となり、全国からのアクセスの優位性もあるのではないかと。是非いろいろなお立場から忌憚のないご意見をいただきたい。

3 構成員紹介

各委員からの挨拶

4 推進会議の運営について

⇒以下について事務局より説明

- ・ 設立趣意書
- ・ 要綱
- ・ 情報公開について

【質疑応答】

（構成員）

配付資料のなかで、地図が点線で囲ってある。今までのイメージでは矢作川の東側すべてが入ると思っていたが、豊田北高校の東側に線が入っている。これが検討している範囲ということだと思うが、矢作川まで接していたほうが矢作川との連携などできると思うがいかがか。

（事務局）

区域についてはこの後説明を行う。この場での議論に加えて、さらに議論するためワークショップなどの市民意見も含めて今後検討していく。

（事務局）

推進会議運営について疑義がないので、了承されたものとして進める。

5 議事

1)中央公園第二期整備計画策定に向けた進め方について

⇒事務局より説明

【質疑応答】

(構成員)

一般市民に意見を聞くということであるが、資料のどこがそれにあたるのか。

(事務局)

議事資料1の中の市民ワークショップや地区連絡会ワークショップ、ヒアリングがそれにあたる。

(構成員)

了解した。

(構成員)

整備計画策定が目的ということであれば、推進会議自体の回数が少ないのではないかと考えていたが、策定自体を目的とすると、どこまでの位置づけの会議となるのか。

(事務局)

計画自体は最終的には豊田市が決めることになるが、皆様からは意見をいろいろと聞く場としたい。さらにワークショップなどで市民の意見を聞きたい。今後推進会議の開催が増えていくこともあると思うので、その際にご協力いただきたい。

(構成員)

了解した。

2)中央公園第二期整備のコンセプト案

⇒事務局より説明

小林氏（有識者会議座長）

3つポイントがある。1つ目は、防災など観点について森林の大切さを理解してもらい、日常的にはそのなかで市民がいかに関わり楽しむかということが大事。

2つ目はテキストマイニングの分析については、自由意見のヒアリングを統計学で使う手法でまとめている。その結果、自然を大事にする、健康、交流、など大事な言葉が登場している。偶然だが、40年前に「豊田市民の誓い」が制定された内容とまったく一致している。出来レースのように見られるかもしれないが、市民ヒアリングから出てきた5つの項目と「市民の誓い」が同じであり、骨太のコンセプトになり得る。構成員の皆さまに承知いただけるかどうかは別として、その事実は説明しておきたい。

3つ目は、この中央公園の取組は、市内外への発信になる。国連のSDGsなどの内容はタイムリーでこの内容にも適合しているところを発信すれば、豊田市の先進性も広く全国に紹介できる。是非皆さんとこの推進会議で議論いただきたい。

【質疑応答】

(構成員)

テーマが多すぎるとあぶはち取らずになるのではないかという懸念がある。

豊橋市の「のんほいパーク」は、恐竜博物館、動物園、遊園地、それらが一つの公園になっている。子供が楽しめるという点では、「刈谷市交通児童遊園」がいい。家族みんなで行くという点では一つのテーマのほうがいい。蒲郡市の「ラグーナテンボス」は、HISが事業を継承し人気が出た。大阪市の「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」も大人向けだったのが、調査を行い家族向けのものを入れたら人気が出た。豊田市は運動できる場所はたくさんある。豊田市にないものは遊園地。遊園地が出来たら、賑わいも生まれるし、豊田市駅からのつながりもできるのでは。

事務局案はかなり検討が進んでいるが、ここまで整理されていたら、ワークショップで何が聞けるのか。

(事務局)

大事なものは市民の意見を使いこなしとしてどう反映できるかである。コンセプトや5つのテーマを整理したが、どういう公園の設えにするかということについては現時点で見えないので、そこを市民ワークショップで検討したい。

(構成員)

事務局案は、全体的によくまとめられている。この規模でいくと、毎日どれくらいの人が入るのか。

(事務局)

現在、鞍ヶ池公園では年間120-130万人くらいが訪れている。都心500haでの回遊性もあるので、鞍ヶ池の3倍くらいは考えていたい。

(構成員)

ものづくり・自動車以外の、林業や農業やスポーツなど、この公園に訪れると、ものづくり以外のものが見えたり、感じられるというのがよい。車以外のこともここに来ればコンパクトに豊田市のすべてわかるというのがいいのではないかと。人が集まるのではないかと。市長がコンパクトシティと言っているが、ここが縮図となるといいのでは。また、交通手段はどうなるのか。

(事務局)

交通手段も合わせて検討している。駐車場の台数なども検討しており、次世代の交通モードなど事務局では議論している。

(構成員)

豊田市は市域の7割が緑なので、どこを見ても緑である。この場所にまとめてほしい。ここに行けば「豊田市」がわかるという公園になるとよいのでは。

(構成員)

議論を聞いていて思ったのは、写真をみせてヒアリングしたということであるが、どこまでの写真の範囲を見せたのか。都心との連携がイメージできるような聞き方だったのか。また、どういった色の公園にするかについての先ほどのご意見は示唆に富んでおり、「豊田市民の誓い」の要素がすべて入っているというのは特徴がないということにもつながる。

豊田市には毘森公園や鞍ヶ池公園などいい公園がある。また、岡崎市では公園を作ることのできる場所が限られていたがゆえに、中央総合公園など既存の公園に機能が集約されており、よく使われている。そういったことを踏まえ、中央公園の整備予定地をどう使うかというのは多くの議論が必要。しっかりした案が出てきたので初回としてはびっくりした。

(事務局)

市民ヒアリングでは航空写真であるが、豊田市駅も含んだ中で意見を聞いている。また意見は5つのテーマに集約しているが、民間活力を活かした手法も含めて進めていくことも考えている。コンセプトを決めた上で民間企業に相談をし、より魅力的な公園づくりを目指す。

(構成員)

パークPFIについては、民間の構成員をどの段階から入れて議論するかがポイントとなるが、どのように考えているか。

(事務局)

まずは豊田市として総合公園のコンセプトをしっかりと決めていく、それにそった民間企業の参画を考える必要がある。

(構成員)

パークPFIに関しては、是非早い段階からキーとなるメンバーに関わってもらいたい。「柳島スポーツ公園」のパークPFIについては構成企業として、NPO法人ベルマーレススポーツクラブが関わっている。広い意味でPFIをつくるメンバーに入ってもらいたい。

「つかう」と「つくる」というが、これからはいかに「マネジメント」するかというのも大事。中心市街地では都市再生推進法人がプレイスマネジメントに取り組んでいる。PFIをやるのであれば早い段階からマネジメントを検討していくべき。

(構成員)

スタジアムの騒音問題は、この整備の背景でもあるのか

(事務局)

スタジアムの騒音についても、その影響を把握しつつ検討していく。

(構成員)

まわりに農地が多いが、住宅地にしてもいいのでは。規制緩和は無理か。

(事務局)

コンパクトシティ施策のなかで、外延部に住宅地を広げていくことよりは魅力ある都心に人を集めるという方向性である。

小林氏（有識者会議座長）

2年位前の都心環境計画や都心地区空間デザインも有識者会議や推進会議アドバイザー会議など何回も開催し、活発な意見が出た。その成果を市長も認められているため今回もお呼び頂いたと考えている。今回もそのようなことが出来ればよい。

また交通手段については、私の大学でも自動交通の研究所ができた。トヨタ自動車もいるし、10年後には自動交通のシャトルサービスなどができるはずである。

ひとつの案で解けるか分からないが考えていっていい。網羅されていて、特徴のない公園になるのではという意見であったが、ご提示した絵が小さすぎて伝わらない可能性があったかと思う。次回はより詳細にイメージをご提示したい。

市長

事務局は決め切ったような自信に満ちた内容であったが、決して決まっているわけではない。アンケートのサンプル数を増やすと、特徴がないものになってしまう傾向がある。鈴木氏の意見も踏まえてしっかりと分析したい。

早くても10年後開園になる。10年後豊田市がどうなっているのかは、条件はいまと違うということも押さえながら、もう一度いろんな議論をしたい。是非次回も忌憚のない意見をもらいたい。次回開催日の前でもいいので意見があればもらいたい。

閉会挨拶

以上